

1. 授業の概要

医学部学生: シラバスに記載。授業の最後に、課題を出す。30分くらいで書いて提出のこと。授業内容に関するものであるが、記憶が曖昧な場合は教科書を見ながら、あるいは回りの学生と相談しながら書くこと。実習はバーチャルスライドで行うので、ID およびパスワードを忘れずに持ってくること。成績および合否は、期末考査の成績で決める。なお、実習テストをバーチャルスライドで実施する。不合格者は期末考査の第一時限目に再試を行う。二限目に筆記本試験を実施するが、実習再試験が不合格の場合は筆記本試験も不合格とする。追試・再試は年度末に行う。

医学修士: 病理学の基礎と病気に対する概念を大まかに捉えることを目的とする。免疫、感染は別に講義があること、研究者養成が使命であることを考慮し、病理総論の講義のうち、日本人の死因に関連する主たる疾患(代謝、高血圧・動脈硬化、感染症、など)について講義を受けること。評価はレポートにて行う。病態生物医学のホームページに課題を6月に出すので見ておくこと。各講義の最後に行う課題については、提出を義務付けない。

知的財産経営学コース: 病理学の基礎と病気に対する概念を大まかに捉えることを目的とする。病理以外の授業では、分子細胞生物学と遺伝医学が課程に入っていること、感染症が入っていないことを考慮し、病理総論の講義のうち、神経、高血圧・動脈硬化、特論などの講義をコースに当てる。評価はレポートにて行う。6月に病態生物医学のホームページに課題を出す。なお、各講義の最後に行う課題については、提出を義務付けない。

2. 推薦教科書

1. Kumar, Cotran, Robbins: Robbins Basic Pathology 10th edition, 2017. (日本語訳は勧めない)。
2. 坂本 穆彦/北川 昌伸/仁木 利郎編集 標準病理学 第5版 医学書院 (関東系・病理組織学)
3. Dr. レイの病理学講義 金芳堂 (修士課程の学生向け)

3. 病理学アトラスのネットサイト

病理コア画像(日本病理学会) <http://pathology.or.jp/corepictures2010/menu.html>

京都大学附属病院 <http://vs.cas.med.kyoto-u.ac.jp>

(Google で「病理診断部」でアクセス→京大病理診断部→「バーチャルスライド」のボタン)

4. 標本観察の仕方

- バーチャルスライドを使って実習を行います。医学部生の実習はバーチャルスライドで行うので、ID およびパスワードを忘れずに持ってくること。これは自宅からも見えますので、勉強してください。
- 臓器のどの部分を標本にしてあるか、病変はどこにありそうかを弱拡大で見当をつけること。病理医はほとんど4倍の対物レンズで仕事をしています。
 - 4倍: 組織構築の異常を見つける倍率。
 - 10倍: 上記異常を確認したいとき。
 - 40倍: 1つの細胞の中を細かく見るとき。封入体を捜したり、核分裂像を確認したりするとき。
 - 100倍: 油浸レンズになりますから、よほどの場合以外は使いません。細菌の確認、真菌の同定など。
- スケッチ: 写生ではない。相手に必要な情報を与えるためのものであると認識せよ。どこに病変部があるかを抽出する力を鍛えるためのトレーニングであることを銘記して欲しい。美しい絵を描くために時間を費やす必要は全くない。色鉛筆は不要です。

- 組織構築という観点から病変部の広がり分かる図であること：粘膜であれば、粘膜上皮層、粘膜筋板、粘膜下層、固有筋層、漿膜下層、漿膜、これらのどこに病変があるかが分かる図でなければならない。病理組織の実習の時には、組織学の教科書を持参し、正常の組織構築を復習しながら、病変部を観察することが望ましい。
- 細胞は細かくスケッチする必要はない。どんな細胞がどれくらいの割合でいるのかがわかれば十分。
- 特徴的所見を見つけること。結核の時の乾酪壊死、腺癌における粘液貯留像、など。

5. 蛇足：勉強以外でためになった本

『城砦』(1937) / A.J.Cronin 三笠書房<クローニン全集 8 >
 『最後の診断』 - The Final Diagnosis (1959年) Arthur Hailey
 『白い巨塔』(1965年～、新潮社) 山崎 豊子

6. 英語の勉強法：万人に向いている勉強法はない。ただし、京大医学部・医学研究科を修了した人間には下記事項が要求されることを考えて、各自で自分に合った方法を考案すること。

1. 基礎的な医学英単語を日本の医学用語に正確に翻訳できること。
2. 医学論文・教科書で使用されるいい回しを覚えること。

7. 授業の進め方。

各教員により授業法は異なりますが、松田は、下記のようなプリントを配ります。このレジメは、それ単体で理解してもらうためのものではありません。覚えておくべき単語リスト、概念図、です。全体像は教科書を読んで理解すること。学生諸君は、病気に係わる単語とその意味を、日本語と英語とで身につけること。講義に使用したプリントおよびその日本語版、またパワポのファイル、試験の過去問題とその解答等はホームページにて公開します。ただし、試験問題の様式は突然変更することがありますので、過去問のみに頼らないこと。間違いに気づいた方は、是非、ご連絡下さい。

1 Edema

1.1 Definition

1.1.1 Hydrops

ascites (hydroperitoneum)
 pleural effusion (hydrothorax)
 pericardial effusion (hydropericardium)

1.1.2 Transudate vs. Exudates

1.1.3 Physiology